

令和3年度 社会福祉法人南伊豆厚生会 事業計画

社会福祉法人 南伊豆厚生会
理事長 稲葉 勝男

令和3年度の今年は、世界中で新型コロナの世界的な拡大が続き、ワクチン開発が従前をはるかに超える猛スピードで開発され、我が国の接種も開始される情勢ですが、世界的には感染力の強い変異種の出現が繰り返されるなど感染拡大は依然収束の目安が付きません。また一年延期された東京オリンピックも従来の様には出来ないことは必至で、開催を模索しつつも不透明な状況にあります。

一方昨年末に米国大統領選挙でのトランプ氏に代わりバイデン氏に政権移行し、米中対立の行方やコロナ緊急財政出動で世界的な財政悪化が懸念され、破壊的イノベーション加速化・経済格差の拡大・また我が国では人口収縮の加速・公共政策の激変から目が離せない様相です。

前年度県東部支部での計画、会議研修等の変更や中止を踏まえ、コロナ禍でのリモート研修等など、事業推進体制自体の再考を県老協とともに事業推進の体制を進める必要があります。

また、働き方改革を軸にした労働基準法の改定、最低賃金の引上げ、消費増税に伴い介護職員の処遇改善等の改定が目白押しに行われた後、めまぐるしい時代の激変の下、介護の現場ではサービスにあたる人材の確保難や利用ニーズの偏在など、多くの問題を抱えており、施設の経営環境は依然として厳しい状況にあるが、地域社会に貢献し続ける持続可能な養護老人ホームの経営を目指して、公共性を堅持しつつ、基本的理念及び運営規程による処遇方針に基づき、利用者と提供者の対等な関係において良質なサービスの安定的な確保、「入所者の処遇を重んじる運営」や、「効率的な健全な経営」、入所者個々の尊厳を基盤とした対人援助を行い、その人らしい自己実現ができるよう下記重点目標を目指し努力して行きます。

重点目標

- ① 入所者の確保
- ② 入所者の処遇目標
- ③ 人事、労務管理

① 入所者の確保

賀茂老人ホーム年間入所者

人

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度予想
月平均	73.3	67.3	66.8	71.6	70.0
年度累計	26,596	24,401	24,584	26,043	25,550

県内養護老人ホームの施設では入所率が現在 81%となっており、このホームでも入所率 81%、入所者は月平均で 71 人でした。市町は地域包括センター、地域総合支援事業を活用させ自宅介護の方向で進んでいます。県内養護老人ホームでは現在の措置制度を円滑に進めていただく為、地方財政・福祉行政の適切な運用を図るよう国、県に市町への指導をお願いするとともに、この賀茂地域での過疎化、高齢化、単独世帯や生活困窮者が増える傾向と深刻な社会問題に対して、今後も市町及び、社会福祉協議会並びに民生児童委員や地域役員等に賀茂老人ホームは賀茂地域で唯一の老人の生活を守る施設であることを訴え、理解を深めていただき、入所者の確保に努めます。

② 入所者の処遇目標

入所利用者の傾向は要介護者、精神障害者・知的障害者・認知症者などが利用しており、要支援、要介護の認定者は 34 名もおります。また、高齢化も進み半数近くの方が 80 歳を超えています。高齢化に伴い注意力、体力の老衰から、歩行時の転倒やベットから転落し、腕や大腿骨骨折などの事故が目立ちます。

事故により長期入院による退所、又は誤嚥による肺炎での入院など多くあり

ます。このような状態ではありますが、利用者の性格、人間だれもがもつ防衛機制、自己像の理解、個人の病気及び状態と経過の理解、生活歴の理解、趣味、特技、身辺処理能力、生活感等理解することにより処遇計画を作成し、より質の高いサービスの提供はもちろんのこと、利用者の生活拠点としての施設づくりを目指してまいります。

③ 人事・労務管理

静岡県でも賀茂地区では特に高齢化率が高く静岡県は令和2年4月1日現在29.5%であり、西伊豆町の49.9%をトップに郡内は9位以内であります。今後、介護を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれ、地域における介護サービスの確保・充実が求められています。介護職をはじめとする職員に働く場をつくり職員の確保をするとともに、新規の介護職員を確保し、バランスよく配置する必要があります。また、施設が順調に運営されていくため、そこに働く職員等の意識と努力の成果に依存するものであり、職員の大いなる努力を引き出すよう努めてまいります。